7－3　1961年～1974年の日本付近の地震活動

Seismic Activity in and near Japan（1961 － 1974）

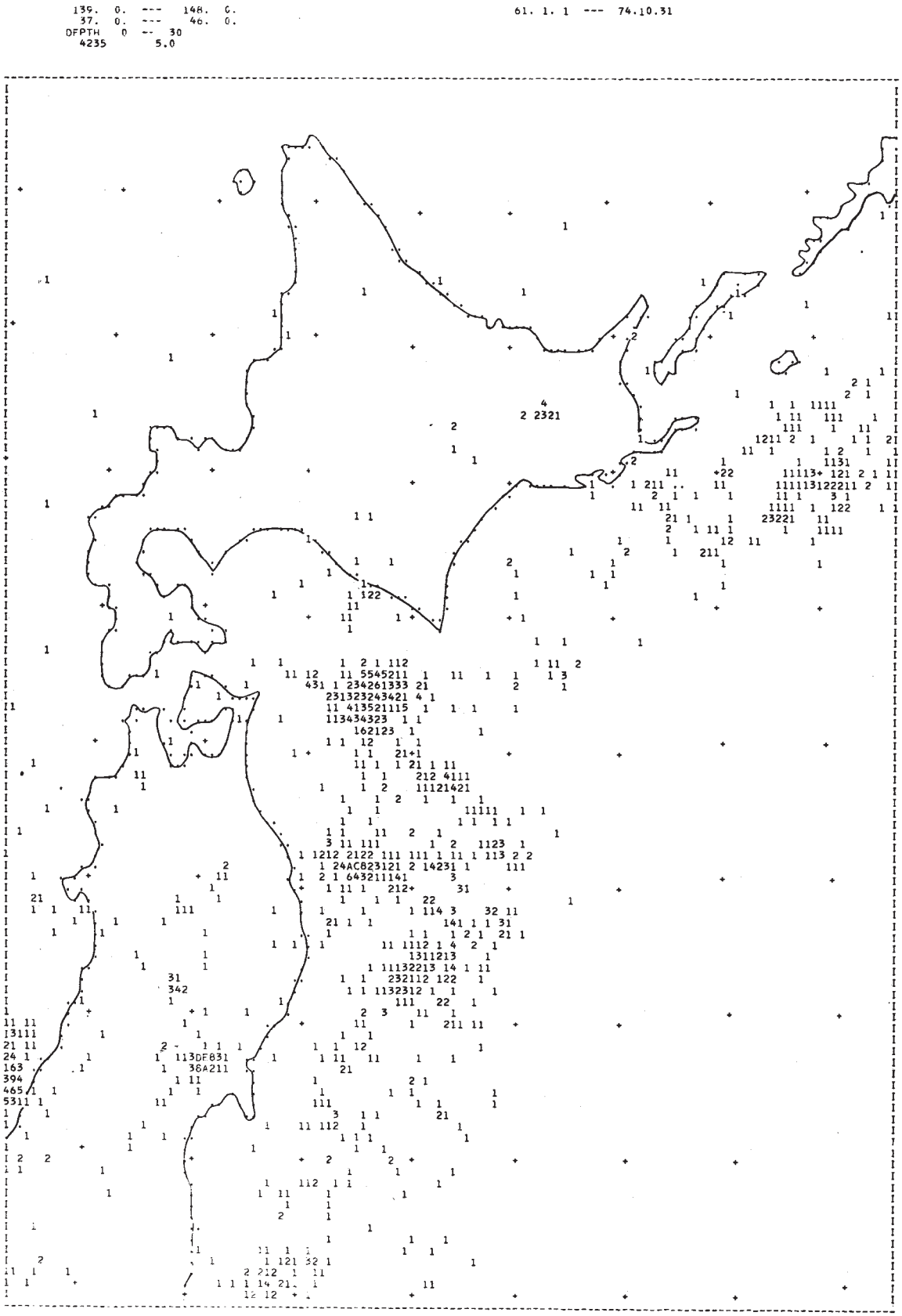
気象庁地震課
Seismological Division,
Japan Meteorological Agency

気象庁が最近14年間に震源決定した地震のうち，第1～2図は北海道，東北地方の地震回数分布図である。図は緯度，経度共5分毎にメッシュ内に発生した地震の数を示し，回数の0から9はそのまま，Aは10回，　Bは11回……を表わしている。第1図は震源の深さが0～39㎞，第2図は40～60㎞の場合の分布図である。これによると北海道の内陸では浅い地震が弟子屈付近に，また日高山脈南部には深さ40～60㎞の地震がまとまって起こっている。北海道南方海域の地震活動の空白域は1973年の根室半島沖地震で一応埋まったように思われる。

東北地方の内陸では，1962年の宮城県北部地震，1970年の秋田県南東部の地震のほか，駒ケ岳，奥中山，岩木山の周辺にも小地震の活動がある。海域では1968年に十勝沖地震が発生しその余震域が顕著である。

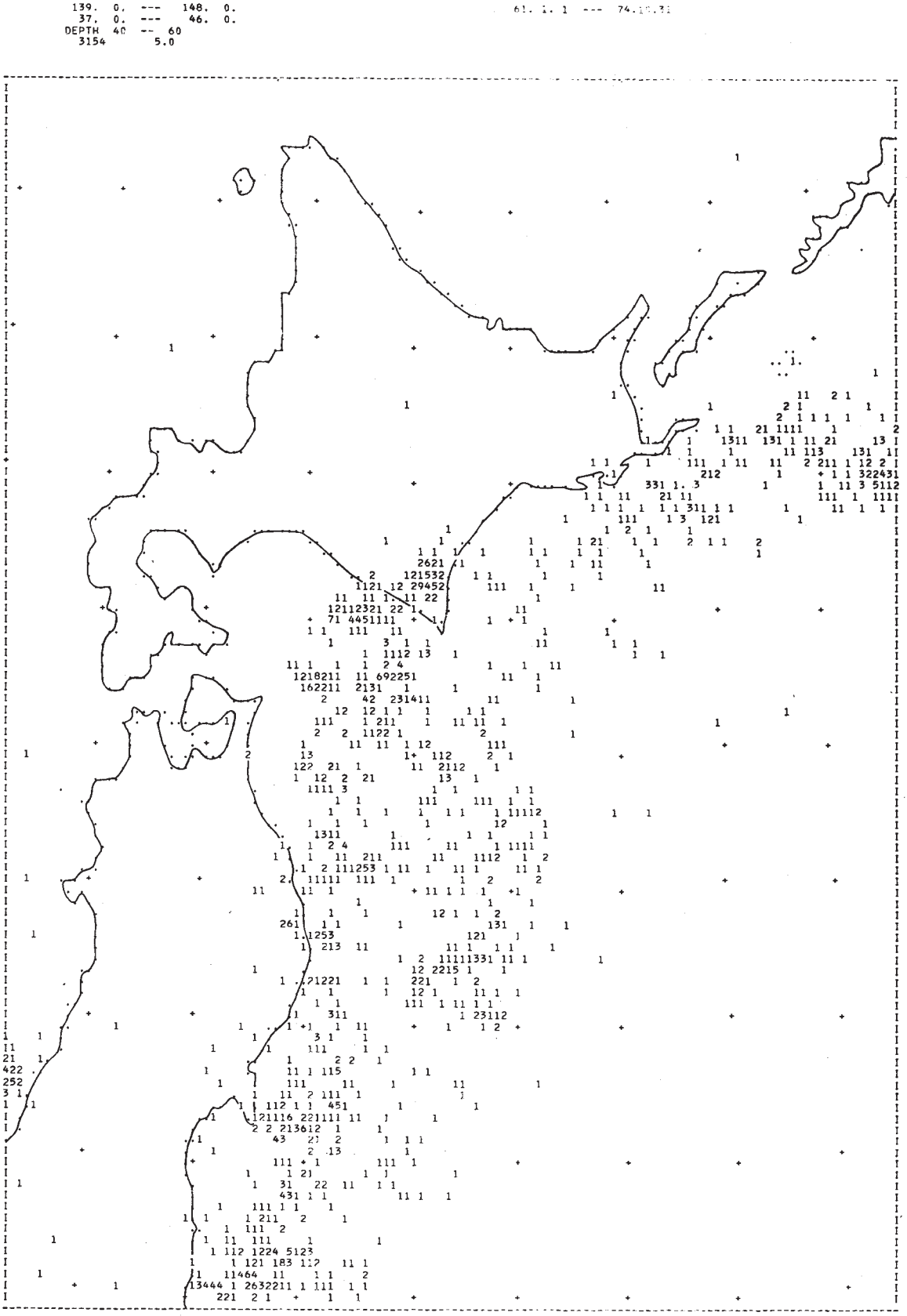
第3～4図は，関東，中部およびその南方海域の地震回数分布図である。内陸の浅い地震のうち1961年の北美濃地震，1969年の岐阜県中部の地震など小被害を伴なった地震がみられるほか，足尾，古峰ケ原付近，松代周辺，信濃坂付近，山梨県東部，伊豆諸島北部などには群発性の地震がある。1945年の三河地震の余震は1961年以後もなお続いている。また，茨城県南西部と千葉県北部には深さ40～80㎞の地震が多く起こっている。海域では遠州灘と房総南方沖に地震活動の空白域があるが，房総南東沖は1973年1月頃から地震が時々発生するようになった。

第5～6図は近畿は，中国，四国，九州，沖縄周辺の地震回数分布図である。これらの地域の内陸の浅い地震のうち，京都周辺，和歌山付近，広島県北東部，熊本県北部，有明海，千々石湾，えびの町などには群発性の地震活動があり，1946年の南海道地震の余震は1961年以後もなお協いている。日向灘から豊後水道にかけての海域には地震の発生が多い。



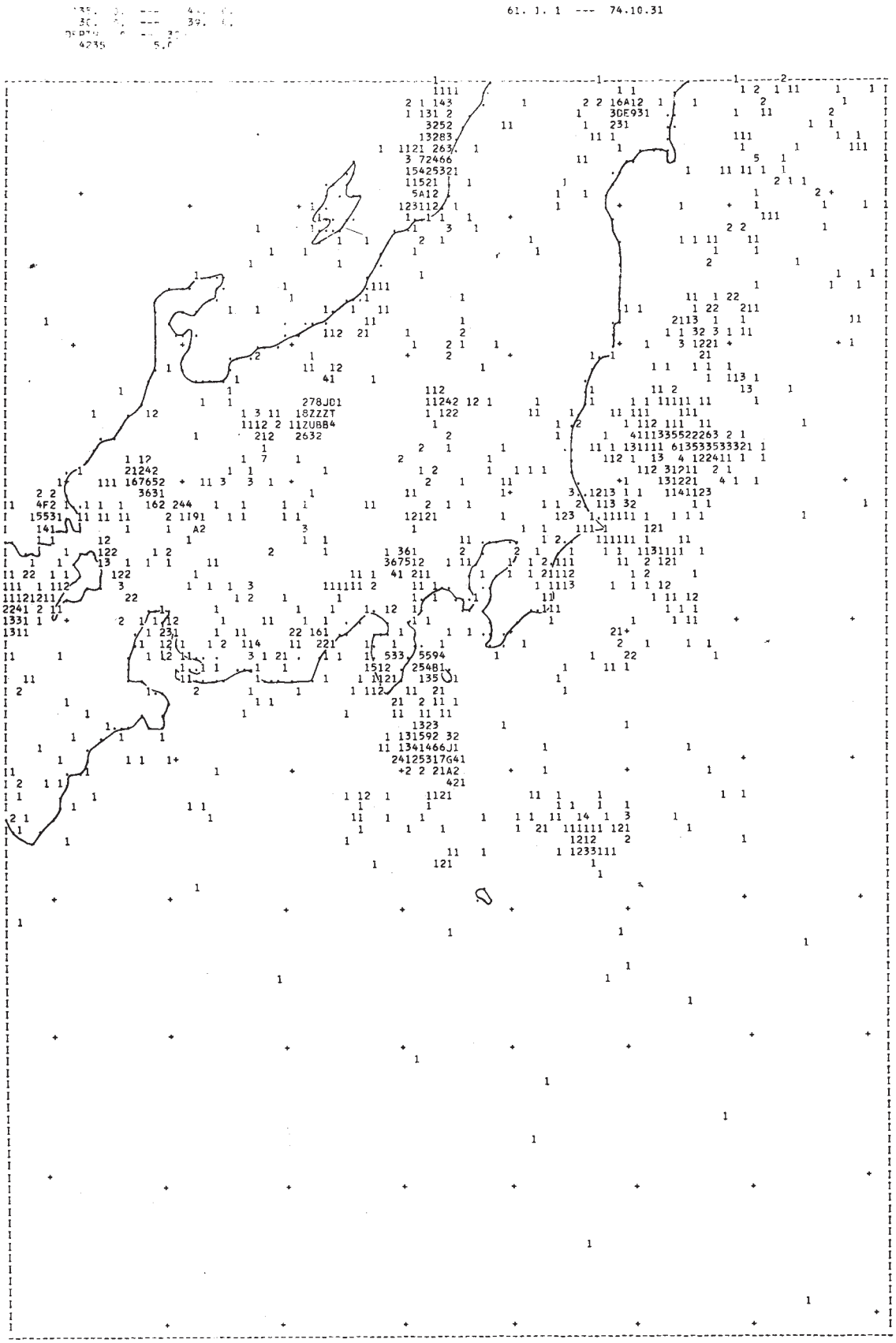
第１図　東北・北海道の地震分布（ h = 0 − 39 km ）（ 1961 − 1974 ）

Fig. 1　Distribution of earthquakes in Tohoku and Hokkaido(h= 0 ～ 39km) (1961-1974).



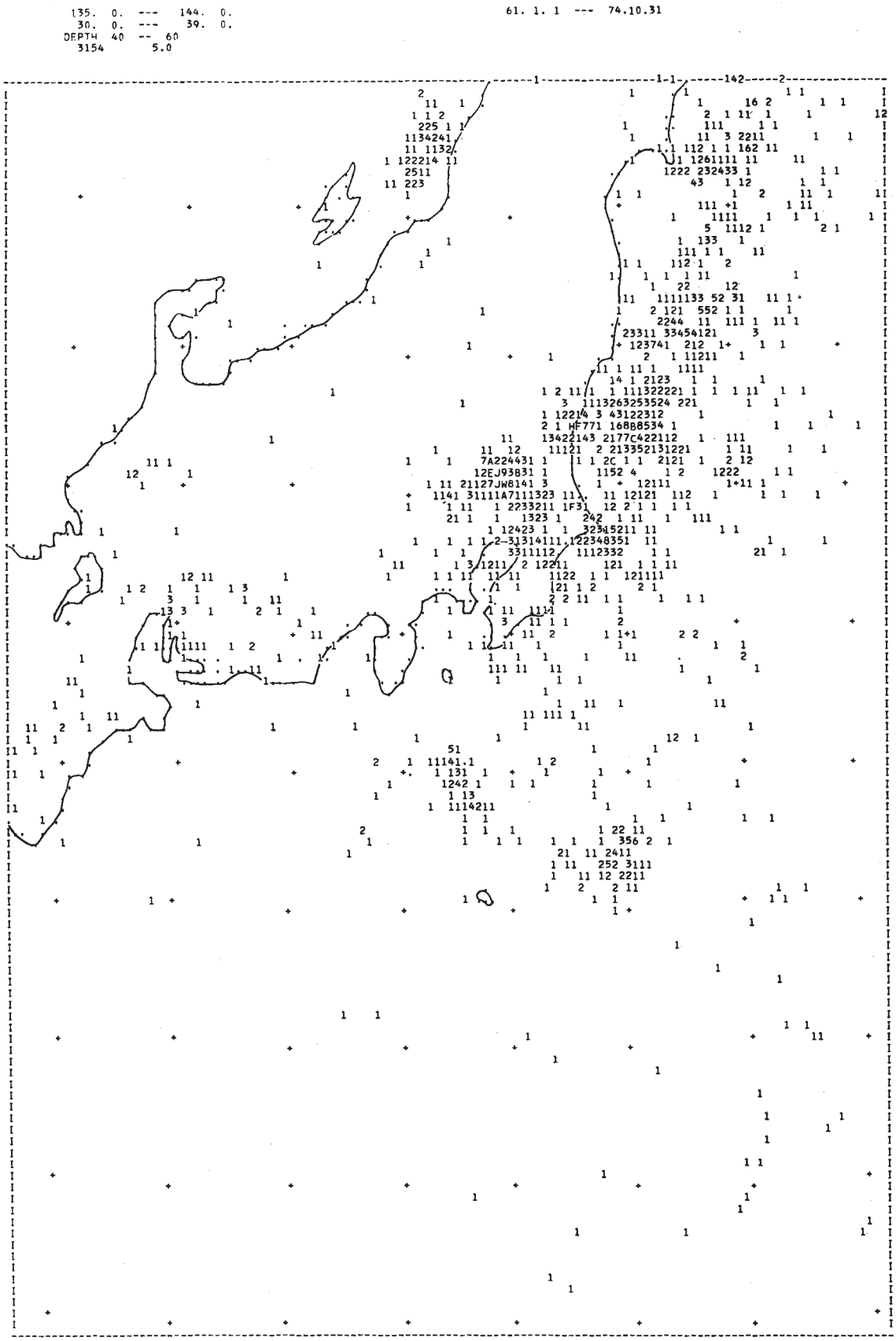
第２図　東北・北海道の地震分布（ h = 40 ～ 60km ）（ 1961 － 1974 ）

Fig. 2　Continued (h=40 ～ 60km).



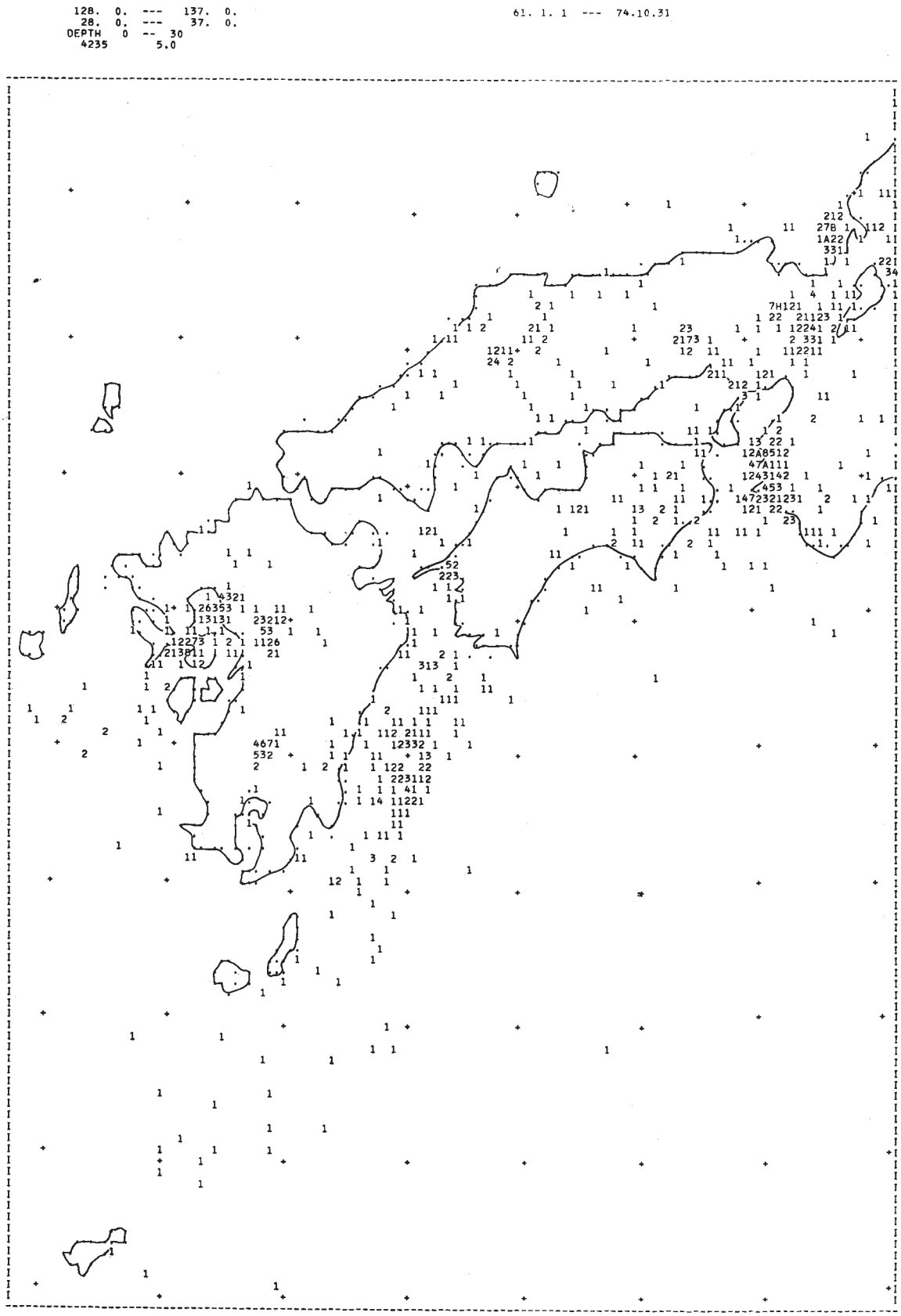
第３図　関東・中部・近畿地方の地震分布（ h = 0 − 39 km ）（ 1961 − 1974 ）

Fig. 3　Distribution of earthquakes in Kanto, Chubu and Kinki Districts (h= 0 ～ 39km) (1961-1974).



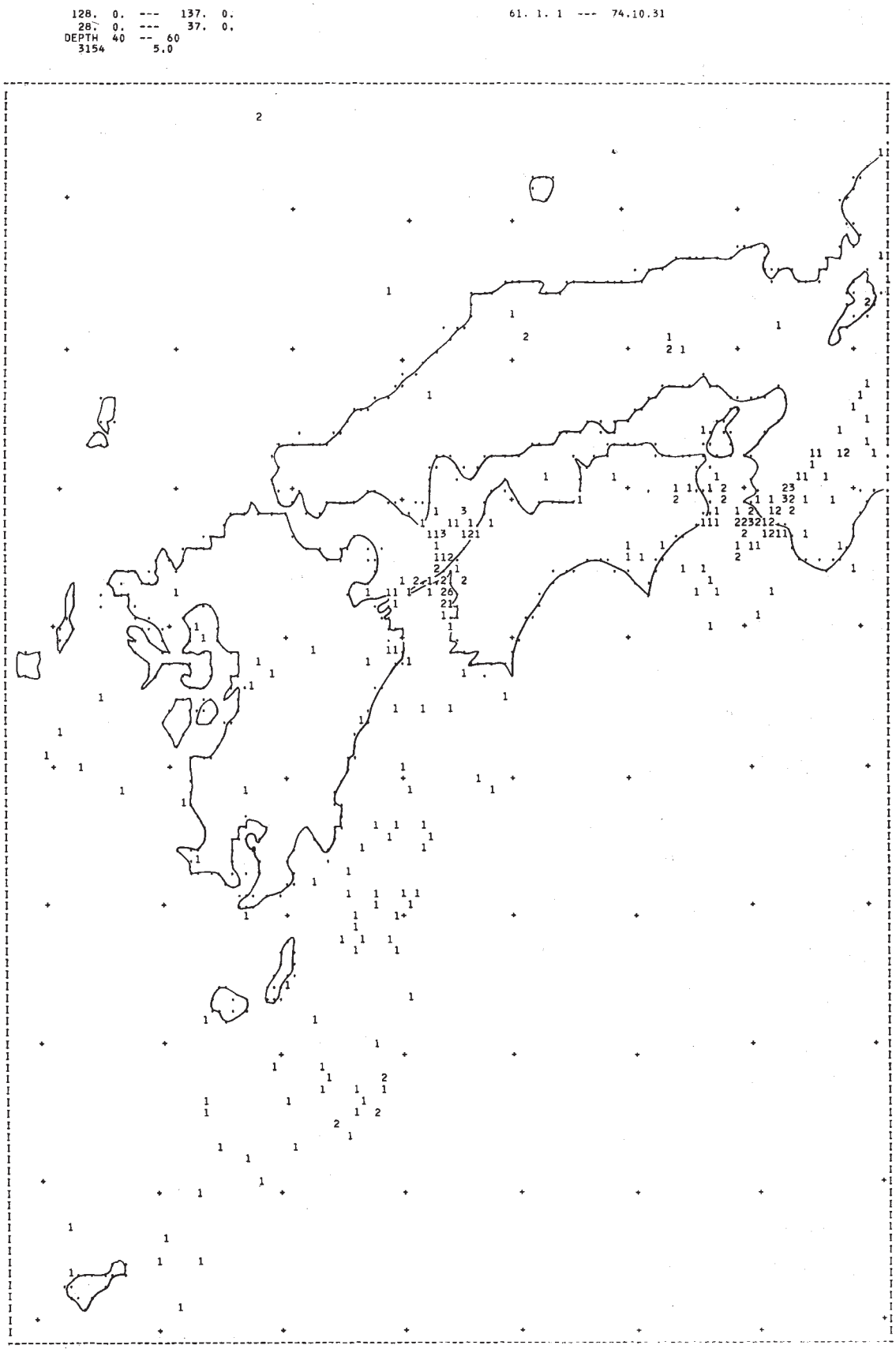
第４図　関東・中部・近畿地方の地震分布（ h = 40 ～ 60 km ）（ 1961 － 1974 ）

Fig. 4　Continued (h=40 ～ 60km).



第５図　中国・四国・九州地方の地震分布（ h ＝ 0 － 39 km ）（ 1961 － 1974 ）

Fig. 5　Distribution of earthquaks in Chugoku, Shikoku and Kyusyu Districts (h= 0 ～ 39km) (1961-1974).



第６図　中国・四国・九州地方の地震分布（ h = 40 ～ 60 km ）（ 1961 － 1974 ）

Fig. 6　Continued (h=40 ～ 60km).